

## 平成29年度 第2回学校関係者評価委員会報告

3月9日(金)に第2回学校関係者評価委員会が開催されました。学校側から各分掌、各科コースごとに生徒・保護者アンケート結果を踏まえた教育活動状況と次年度への課題を報告し、委員の方々から意見や要望を含めた以下のような評価コメントをいただきました。

### ○学識者 代表

地域の代表の方にお褒めの言葉をいただいたこと、わかりやすい資料の分析がよかった。高大連携のホームページを最大限活用してほしい。「ダートフィッシュ」の取り組みを中学校へPRしてほしい。中学生をどのようにして集めるか、退学者をいかにして減らすかが今後の課題となる。現在、大学では退学者を減らす取り組みとして学級担任や専属の職員を配置している。

校長のリーダーシップのもと、先生方が自分の責任をしっかりと果たしている。“人づくりのために教育に携わっている”という原点に戻って、落ち込んだときには互いに助け合い、上司がよく気を配り、チームワークを磨いて更なる発展に繋げていってほしい。

### ○企業 代表

当社の新入社員は高卒と大卒が混在しているが、社会人としてのマナーやコミュニケーションの取り方などの新人教育は全員同じスタートラインから行っている。毎年、明成高校から入社する生徒さんについては、素直で上司の声に耳を傾け、前向きに仕事に取り組んでくれており、素晴らしい人材を送っていただき感謝している。

### ○地区小学校 代表

調理科で実施している「味噌・白菜作り体験」に小学生を参加させていただいていることに感謝している。小学校と高校との連携は全国でも珍しい取り組みであり環境に恵まれていると感じる。震災後、自己肯定感が低い児童が多くなっていることを踏まえた生徒指導や、小学校での学習習慣や基本的な生活習慣の確立をしっかりと指導することが重要であることを再確認した。

### ○区連合町内会 代表

地域の様々な行事における本校生の手伝いや女子バスケットボール部の大雪時の除雪や毎朝の清掃活動に対して感謝している。デザインアートコースの生徒満足度が高い理由は、先ほどの外部のファッションショーへの参加など今年度の取り組みの説明で理解できた。調理科の資格取得への満足度が少ないことが心配である。全体的に体育祭や学園祭などの行事に対する生徒の満足度が低いことの対策として、自主的な活躍の場を増やすことが大切であると思う。年々高校と地域との交流が盛んになってきているが、さらに高校と協力しながら文教地区としてふさわしいまちづくりを目指していきたい。

○福祉関係 代表

教えることの難しさ、教育の大変さに共感した。現在、教育の転換期をむかえ新しい学習のすすめ方をどのようにしていくかが今後の課題となる。「人を育てること」について今後も連携させていただきたい。今年度は、そうした連携が一つずつ形になってきていることが肌で感じられた。

○同窓会 代表

時代の先取りをする学校と感じ、今の生徒を羨ましいと感じた。家庭教育の乏しさを感じた。本来は家庭で行うべき教育も先生方が行っている状況が伺えた。私たちが接している生徒たちのマナーは良い。ただし、マナーを注意しても無視するのは女子生徒に多く見られる。

○父母教師会 代表

調理に携わっている者として、最近の調理師養成は技術やスキルだけを指導する方が増えてきている。是非、マナーや態度についても指導してほしい。保護者のアンケート結果の数字は、半分として考えていただきたい。学校からのプリントや情報が家庭に届かない現状が引き続きあるので、HP 等ほかの方法を検討してほしい。